

はじめに

横田基地の歴史は、瑞穂町が町制を施行した昭和15年に、陸軍多摩飛行場として設置されたことに始まります。第二次世界大戦終戦後の昭和20年9月に米軍に接收された後、数次にわたる拡張や部隊の変遷があり、現在は、在日米軍基地としての機能のほか、航空自衛隊航空総隊司令部も所在しています。

瑞穂町は、都心から約40kmに位置し、東部には狭山丘陵が広がり豊かな自然に恵まれています。また、南北をJR八高線及び国道16号が、東西を青梅街道と新青梅街道が通る交通の要所です。そのような環境にある中で、町は、基地総面積の約3割、約210ヘクタールを提供し、滑走路が町の中心部をえぐるように延びています。

基地の存在は、航空機騒音のみならず、事故発生の危険性を伴うため、町の発展の大きな障害であり、その根本的な解決は、基地の返還です。しかしながら、基地は国防上極めて重要であると認識しており、町では、基地に起因する諸問題の解決に向けた対策を、関係機関に対して要請してきました。今後も、東京都や基地周辺市とも綿密に連携し、引き続き関係機関への陳情、要望等を行い、基地被害の防止に努め、安全安心なまちづくりを推進します。一方で、基地に対しても、直接要望すべきことは要望しつつ、隣人としてのお付き合いも大切にしたいと思っています。

なお、基地の軍民共用化については、経済性や利便性のみを追求し、飛行直下に位置し、航空機騒音被害をより多く受けている当町の実情を顧みないものと考え、到底、受け入れられるものではありません。

本書は、基地周辺対策事業の関係資料としてとりまとめた「瑞穂町と横田基地」の9回目の改訂版として発行するものです。基地に起因する諸問題を抱える本町の現状を知っていただくとともに、関係各位のご参考になれば幸いです。



瑞穂町長

杉浦 裕之